

1 産短大及び峡南技専を取り巻く環境

(1) 社会経済情勢等

- ・生産年齢人口(15~64歳)の急速な減少
- ・高校卒業者の大幅な減少
- ・大学等におけるAI教育の必修化
- ・外国人労働者の増加
- ・就職氷河期世代への社会的支援
- ・新型コロナウイルス感染症を契機とした社会のデジタル化

(2) 高校生・企業ニーズの状況

○高校2年生のニーズ

- ・進路決定時重要項目 ①専門知識・技術の習得 ②就職率の高さ ③資格取得
- ・受けた教育内容 ①eスポーツ関係 ②観光・旅行 ③AI(人工知能)

○企業ニーズ

- ・新卒者採用時の重視項目(技術者基礎力)
 - ①新知識・技術の吸収力 ②専門分野の基礎学力 ③課題発見・解決力
- ・今後、必要と考える人材
 - AI・IoTの基礎知識を有し、ソフトを活用できる人材
- ・外国人留学生や就職氷河期世代を採用対象とする企業が一定数ある。

2 両校の特長

- ・両校とも少人数制の実践的な教育で、在校生は概ね学校生活に満足している。
- ・両校とも企業からの求人が多く、学生の就職率はほぼ100%である。
- ・産短大卒業生の3年以内離職率は、大卒よりも低く、企業に定着している。
- ・産短大では、課題解決力やAI等の新技術の訓練を今後期待する学生が多い。
- ・峡南技専では、電気自動車等の訓練を今後期待する学生が多い。

3 主な課題・問題点

- (1) 定員割れの状況
 - ・産短大の電子技術科等や峡南技専の電気システム科では、定員割れが続く
- (2) 学校の認知度の向上
 - ・高校生の両校の認知度が低いため、より広く知ってもらう取組みが必要
- (3) 訓練内容及び指導体制の充実
 - ・AI等に対応できる指導員の育成や外部人材の活用等、体制の充実が必要
- (4) 外国人留学生の受入体制整備

4 人材育成の方向

産業界から両校に高い期待が寄せられていることを踏まえ、現在の各学科の編成を維持した上でカリキュラム再編等を行い、学校の魅力を高めていく。

- ・本県産業の持続的な成長・発展を図るため、AIやIoT等のデジタル技術の革新に対応できる人材を育成する。
- ・外国人等を含む多様な人材が、県内企業で活躍できる環境を整備する。

(1) 時代の要請に応える人材育成

①カリキュラムの検討

<産短大>

ア 全学科共通

- 日本電気(株)(NEC)との包括連携協定を活用したAI基礎教育
 - ・全科にAIのリテラシー(基礎)教育の導入や、講演会の実施を検討
- 課題発見・解決力やコミュニケーション力を高める取り組み

イ 電子技術科、情報技術科

- ・NECのノウハウを更に専門的にカリキュラムに取り入れる検討

ウ 生産技術科

- ・製造業に普及しつつあるIoTに繋がるコンピュータ制御等の学習を充実

エ 観光ビジネス科

- ワインに関する幅広い知識やサービスの向上を図るプログラムの作成

<峡南技専>

ア 自動車整備科・電気システム科共通

- 環境に配慮した新技術に関するカリキュラムの充実
 - ・太陽エネルギーや電気自動車等に関する教育

イ 電気システム科

- ・第一種電気工事士の資格取得強化

②外国人留学生の受入(産短大)

- ・令和3年度から試行、令和5年度から本格導入

③就職氷河期世代の受入

- ・入学枠等の在り方、授業料の免除等を検討し、R4年度から受入

④指導体制・設備の充実

- ・指導員の育成や外部有識者を活用したオンライン訓練の検討等

(2) 学校の認知度向上

- ・高校3年生担任との情報交換会の充実や高校教員へのアンケート実施
- ・ハローワークやジョブカフェでの周知、ショッピングセンターでの広報
- ・若手職員や学生の意見を取り入れたPR検討等

(3) 主な取組みの実施スケジュール

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
AIカリキュラム検討・作成	検討・作成	☆ 新体制発表	実施
産短大 AI授業計画(シラバス)検討・作成	実施	実施	実施
産短大 課題発見・解決力、コミュニケーション力を高める取り組み	実施	実施	実施
産短大 ワイン・ホスピタリティ・プログラム(仮称)の作成	プログラム検討	授業計画	実施
峡南技専 環境に配慮した新技術に関するカリキュラムの充実	検討・実施	作成	実施
峡南技専 第一種電気工事士 資格取得強化	実施	実施	実施